

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年2月12日 NO.85 (185)



シジュウカラ

オー君 「あれあれ？かわいい^{とり}鳥がいるね。」

花ちゃん 「この鳥はね、シジュウカラというのよ。^{やま}山や^{のほら}野原、^{しがいち}市街地や^{じゅうたくち}住宅地など、いつでもどこでも^み見ることができる^{とり}鳥よ。」

オー君 「へえー。あまり^{おお}大きくはなさそうだけど・・・。」

花ちゃん 「^{ぜんちょう}全長が14.5cmで、つまりスズメと同じ^{おな}くらい^{おお}の大きさね。それから、^{たいじゅう}体重は14gくらい、つまり1^{えんだま}円玉が14^こ個^{おも}くらいの重さね。」

オー君 「ふーん。そうなんだ。それで、どんな^なは^{こえ}鳴き声^がするの。」

花ちゃん 「ツツピー・ツツピーと^な鳴くのよ。^{とり}鳥の中^{なか}でもいち^{はや}早く^{はる}春^しを知らせるくれるわ。」

オー君 「ふーん。なるほど。それで、シジュウカラにはどんな^{とくちょう}特徴^があるの。」

花ちゃん 「そうね、^{からだ}体の^{いろ}色は^み見たとおり、^{しろ}白・^{くろ}黒・^{はいいろ}灰色で、^{せなか}背中^がちよっとう^{みどりいろ}すい緑色^をしているのが、ちよっとおしゃれね。」

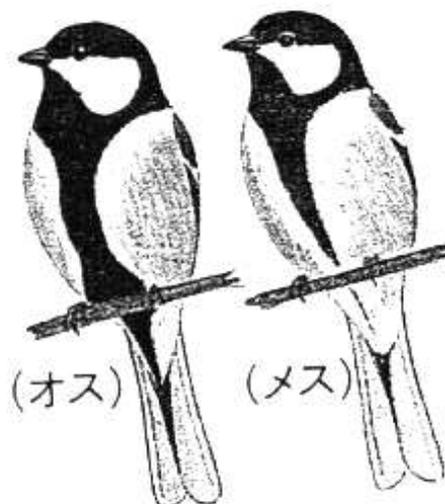
オー君 「ふーん。そうだね。^{みどりいろ}緑色^がきれいだね。ほかによくわかる^{とくちょう}特徴^{という}のはないのかな。」

花ちゃん 「それから、のどからおしりにかけて、ネクタイのような帯おびがあるのもよくわかる特徴とくちょうね。」

オー君 「へえー。そうなんだ。」

花ちゃん 「オスは、そのネクタイが太ふといのに
対たいして、メスはネクタイが細ほそいのよ。」

オー君 「そうか！右の絵を見ると、オスとメスのちがいがよくわかるね。」



花ちゃん 「ところで、オー君。この前まえ、鳥とりには
夏鳥なつどり・冬鳥ふゆどり・留鳥りゅうちょうがいるといったで

しょう。では、ここでクイズ。シジュウカラはどれにあたるでしょうか。」

オー君 「わかった。さっきシジュウカラは、いつでもどこでも見るみことができるとい
ったから、たぶん留鳥りゅうちょうだ！」

花ちゃん 「ピンポン。そのとおり。」

オー君 「最後さいごにまた質問しつもんだけど、シジュウカラはどうして、その名前なまえになったの。」

花ちゃん 「いい質問しつもんね。これにはいろいろな説せつがありますが、まず、シジュウカラとい
うのは、漢字かんじで『四十雀しじゅうすずめ』と書かくそうなの。四十しじゅうというのはたくさんいて群
れているという意味いみだそうよ。」

オー君 「へえー。そうなんだ。一羽いちわだけでいることは珍めずらしいということだね。」

花ちゃん 「そうね。それから、スズメが40羽ばに対して、このシジュウカラ1羽わという
交換条件こうかんじょうけんから名づけられたという説せつもあるそうよ。」

モンタ博士 「お！二人ふたりとも鳥とりのお勉強べんきょうのようだね。えらい、えらい。ところで、今いま、シジ
ュウカラのお話はなしをしていたね。あのね、シジュウカラという名前なまえは、モンタ
博士はかせの『おさいふ』と覚おぼえるといいと思うよ。」

花ちゃん・オー君 「え！モンタ博士はかせの『おさいふ？』それは、どうしてですか。」

モンタ博士 「それはね、シジュウとは、漢字かんじで『始終しじゅう』と書かき、『いつも』とかの意味いみだね。

そんで、カラとは、漢字かんじで『空から』と書かき、『からっぽ』とかの意味いみになる。

つまり、モンタ博士はかせの『おさいふ』はお金かねがなくて『いつもからっぽ』なのさ。」